

●目次●

- ・ ネパール通信 (P2～3)
- ・ 2014震災支援活動報告会 (P4)
- ・ 北海道新聞掲載記事 (P5)
- ・ お知らせの部屋 (P6)
- ・ 会費納入 (P7)

私達はすべての人の健康と平和を願って、

- ⊕ 北海道の一般市民が中心となった活動をしていきます。
- ⊕ アジアなどの発展途上国に生活する普通の人々の自立を支援していきます。
- ⊕ 同じ地球上の他の国や地域のことを考える中から、北海道に住む私たち自身の生活を見直していきます。

「let it go」



どさんこワーカー時代はカンボジアに住んでいました。現在はタイに来る事が多くなりました。それ以前にもアジアは好きでよく旅に来ています。最近世界中で流行の曲 ” let it go ”。日本語では、” ありのままの ” と歌われていますが、元々の意味は ” 手放すこと ”。生まれてからずっと ” ~でなければならぬ ” ” ~であるべき ” ” ~であるべきでない ” などの鎖のように自分を制限する様々な観念。それを少しずつ外していく事で、ありのままの自分を生きる。みんなが潜在意識の中で望んでいる事なのだと思います。

でも現実には、「そんな事をしたら、社会で生きられなくなってしまうよ～」という恐れがわいてくると思います。実はそれが、我々の意識の根底を支配する恐れ。その恐れを手放せたら、本当に自由になれる。

アジアの魅力は、住んだり旅したりすることで、いろいろな観念の縛りから解放されていく事なのかもしれません。

” Let it go in Asia ”

元カンボジアワーカー 丹野太介



ネパール通信 2014/9

ネパール駐在員 梶戸健次郎

皆さんお変わりありませんか。

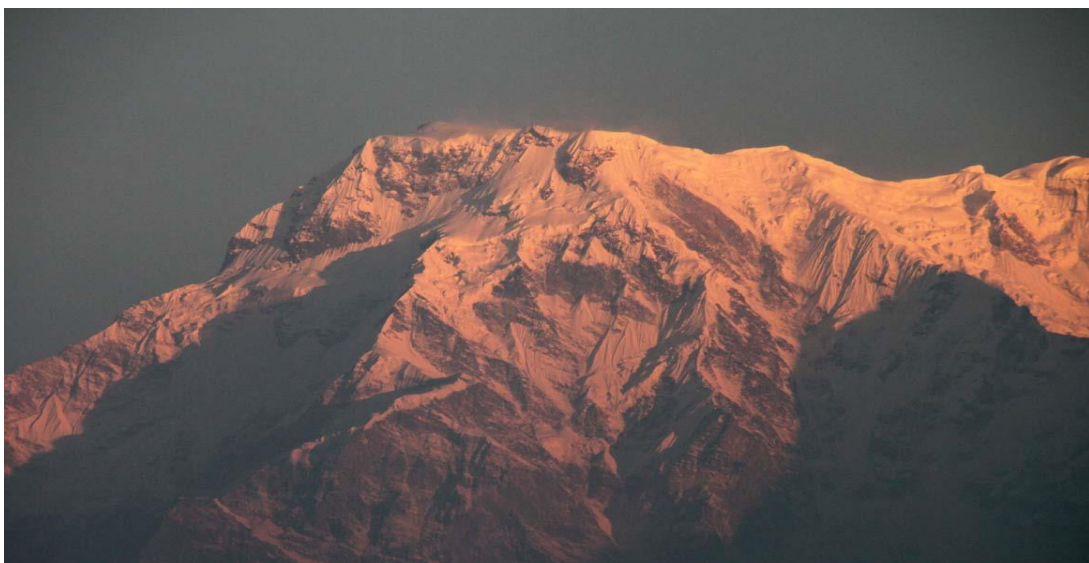
私もお陰様で元気に活動させていただいています。昨日ネパールから戻りました。

今年はネパールも異常気象です。雨期に入るのが遅れ、9月末になってもまだ雨期が明けません。ただ全体の雨量は例年に比べ少ないようです。このままいけば、冬の乾季には停電が一日20時間近くなるのではないかと心配する人もいます。年間で一番停電時間が少ない現在で、首都カトマンズ、1日の予定停電が7時間。どうなるのでしょうか。ただ雨がスコールのように降り、あちこちで土砂崩れが起きています。

チョウジャリへの道もいたるところで大小の土砂崩れがあり、私が運転するわけではありませんが、緊張の連続でした。

カトマンズーチョウジャリ間を飛んでいたネパール航空の国内線飛行機が、昨年落下、故障などで1機もなくなり、現在、チョウジャリへはネパールガンジまで民間機で飛び、そこから車をチャーターし悪路7時間です。その間、土砂崩れの箇所が数十か所ありました。チョウジャリ病院前に続く道は雨期には通れず、川向うのクデゥまで車で来て、そこから崖を下り、吊り橋を渡り、崖道を登って30分で病院に着きます。来年には中国から買った飛行機がチョウジャリにも飛んでくる予定で、そうなれば元のようにカトマンズから週1便、1時間20分のフライトで、そこから平坦な道を歩いて30分で病院に着きます。

来年のスタディツアーはチョウジャリに来ていただきますか。



今年の春から夏にかけ、今までになく日本人がチョウジャリ病院に来てくれました。ここ4、5年毎年来てくれている整形外科の森夫妻と山本看護師は4月から4か月、毎日2つから多い時で5つの手術をこなし、ここではなくてはならない先生になってきました。

6月、今年から産婦人科の山本先生が加わり帝王切開をはじめ子宮脱の手術など放送で知り、遠くから患者が集まり忙しい毎日でした。また6月には大阪の年輩外科医が1か月夫人とともにボランティアで来てくれており、一時3人の日本人外科系医師がいました。その間滞在した日本の医学生と看護学生は、いろいろなことを教えてもらい、させてもらい、貴重な経験をしたようです。

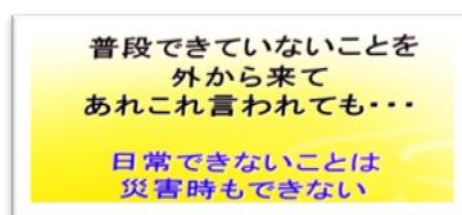
研修医は3人。手稲溪仁会から研修医3年目、外科医1名と内科医1名。千葉の亀田総合病院から2年目の研修医。こちらも1か月足らずの研修でしたが、手術場で、病棟で、日本では会えない症例に出会い、また貧しい患者の様子を見て、感じるどころが多かったようです。琉球、東海、滋賀医大と医学生、看護学生も10数名見学に来て、お産を見せてもらったり、回診に付いたり、公衆衛生の事業で村に行ったりと有意義な時を過ごしました。「どさんこ」が応援している公衆衛生部門もプルナさんを中心に頑張ってくれています。



今年度の計画は昨年の事業内容の充実です。ただ改良かまどの設置や学校でのトイレ新設の要望も多く、プルナ氏の片腕になって働いてくれる男性職員のリクルートも考えなければならなくなってきました。

また、今までの活動範囲の外側でHDCS本部が予算を用意し、母子保健事業に係ることにもなりました。こちらへの協力も今年の課題です。(9月30日)

2014年震災支援活動報告会を開催



9月27日、気仙沼市役所保健師の鈴木由佳理さんをお迎えし、東日本大震災支援活動報告会が札幌市のリンケージプラザで行われました。

まず最初に、大泉代表が過去3年半にわたり「どさんこ海外保健協力会」として行ってきた震災への支援活動について報告しました。

被災者や被災地域の状況が毎年変化していくのに合わせ、支援の役割も変えていかなければならず、それに柔軟に対応していくことの難しさ、また、地元の人たちに迷惑にならない、邪魔にならない支援とは、ということをつつも気をつけながらの支援についても話されました。

気仙沼の鈴木由佳理さんからは、「震災からの3年半を振り返る ～喪失から新生への道程～」というテーマで講演していただきました。

鈴木さんは、気仙沼市本吉支所で勤務中に被災し、同僚や肉親を失いながらも、震災後の医療コーディネーターとメンタルケアに努め、その後、肉親を亡くした方のための「遺族ケア会」、アルコール依存症の当事者支援の会「本吉断酒会」を立ち上げ、地域に必要とされる支援を続けられている方です。

気仙沼は、いまだに行方不明の方の多い地域とのことでした。震災直後は、被災者の疲弊状態が目立ち、各種症状の慢性化の増加、心の健康状態の悪化に対する支援が急務でした。しかし、時間が過ぎるのに伴い、被災者への支援内容も個々の被災者への対応へと変わってきています。地域保健活動の基本的な考えは、「否定しない・強制しない・尊厳を持ち支援」とのことでした。そして、これからの支援は「人数ではなく機能が大切」であり、更に支援者も住民も孤立しないようにチームワークを大切にしなければいけないといわれていたのが印象的でした。

(報告者 西原 征治)

★北海道新聞に掲載されました。

9月4日(木)夕刊「どさんこ」の20年の歴史と活動内容が紹介されています。

海を越え 命支え 20年

どさんこ海外保健協力会

道内の医師らで構成し、アジアの途上国で医療支援を行ってきた非政府組織(NGO)「どさんこ海外保健協力会」が、設立から20年を迎えた。貧しい人々にも医療をくまなく提供する仕組みづくりや、病気の予防の取り組みが実を結んでいる。海を越え、尊い命を支えるメンバーは「これからも息の長い活動」と決意を新たにしている。(報道センター 須藤真哉)

今後道内発の医療アジアに

「途上国の安価な資源を使って発展した国の責任として、国際協力は必要ではないか」。8月23日、札幌市内の協力会事務所。20年前から毎月続ける勉強会で、メンバーたちはカンボジアやネパールの人々と笑顔で収まった写真で振り返りながら、医療支援を続ける意義を確認し合った。

協力会は1994年8月、日本キリスト教海外医療協力会の一員として海外支援をしていた空知管内栗沢町美流診療所所長(当時)の樋戸健次郎さん(69)ら有志が「北海道発の医療協力を広めたい」と設立。内戦の傷が癒えないカンボジアで支援を始めた。現在は一人が海外にほぼ常駐しているほか、1〜2人を短期で派遣している。

派遣第1号は現在、協力会代表で後志管内留寿都村の診療所に勤める大泉梅さん(48)。札幌や沖縄の病院での研修を経て94年9月から3年余り、首都プノンペン近郊の病院を皮切りに医療支援に取り組んだ。

「負しなくて病院に行けず、亡くなっていく母親や子供がいた。一人でも多くの命を救いたかった」

大泉さんは内戦で荒廃した病院の再生とともに、現地の行政に働きかけ、患者に医療費を無利子で貸す制度づくりに力を注いだ。後任メンバーも普及に努め、現在は29の村で実施。この制度で、交通事故で重傷を負った子供が救命された例などが報告されている。

一方、2004年に代表を大泉さんに譲った樋戸さんは11年から、協力会のネパール駐在員として同国西部のチョウジャリ病院を拠点に支援を続ける。山が多く通院が難しい現地では、患者が3日ばかりで搬送されるケースも。こうした環境では病気の予防が重要と考え、子供の健康教育や水場の整備など衛生面の支援を行い、喜ばれている。

海外に長く行く場合、勤め先の医療機関を辞め、帰国後に再就職先を探すなど、苦労も多い。現地での活動費、派遣メンバーの生活費を支えるのは、道内の医療関係者ら約240人の会員の会費や一般市民の寄付金だ。協力会は海外の支援現場に道内の医学生らを招く見学ツアー、東日本大震災の被災地支援も行い、活動の幅を広げている。

20年の節目を迎え、大泉さんは「現地の人が健康づくりに自立できるよう、サポートを続けたい」。樋戸さんも「人の痛みに寄り添う経験は、道内の医療現場に戻っても糧になるはず」と、若い医師に活動への参加を呼びかける。

協力会への入会や寄付などの問い合わせは同会事務局 ☎080・4049・1135へ。



①ネパールで短期の医療支援に出向き、学校での健診を行う大泉梅さん(左)＝大泉さん提供②月例の勉強会で今後の活動方針を話し合う協力会のメンバー

お知らせの部屋

★2014年度ネパールスタディツアー決定しました。

とき：2014年11月19日(水)～28日(日)

参加者：5名(越後・江村・徳永・蛭川・山田)

★第4回気仙沼ボランティアツアー決定しました。

とき：2014年10月10日(金)～12日(日)

参加者：3名(大泉・金澤・蛭川)

<今後の予定>

●11月16日(日)

15:00～15:30 世話人会

(会員以外の方もオブザーバー参加OKです)

15:30～17:30 オープンハウス

「カンボジア短期派遣報告会」

担当 大泉 樹代表

●12月13日(土)10:00～16:00

北海道国際協カフェスタ2014

於 札幌地下歩行空間北3条交差点広場

北海道のNGOの活動発表会の場である国際協カフェスタに「どさんこ海外保健協力会」は今年も参加します。ぜひ遊びに来て下さい。

また当日お手伝いに来ていただける方は事務局

hopedosanko@yahoo.co.jp

までご連絡下さい。

★ネパール駐在員榎戸さんがネパールで作られたマフラーやパシュミナ(カシミヤより高品質)のスクarfを持ち帰り販売して当会に寄付して下さっています。

マフラーやパシュミナは、安くて品質も良く大変人気があります。関心のある方は事務局

hopedosanko@yahoo.co.jp

まで。

どさんこホームページ

随時更新しておりますので

ぜひご覧ください!!

URL:<http://homepage3.nifty.com/hope-dosanko>

会費納入された方、団体

福田 和子、鹿討 咲子、林 律子、畑中 美知江、大上 拓男、上野 弘子、阿部 松雄、嵯峨 英子、杉浦 三鈴、伊藤 敏子、長木 智枝子、佐藤 正子、佐藤 修子、平林 良登、山口 たか子、阿部 礼子、松浦 ゆかり、由良 珠江、千早 きみ子、岩間 邦夫、藤 孔仁子、三浦 忠男、三浦 房子、近藤 日出子、及川 清、加藤 洋子、小沼 武、長谷部 幸子、泉谷 雅子、石津 亜希子、井上 紀子、藤田 智子、水野 優子、二川 昌子、出口 輝子、安達 睦子、飯田 貴子、石垣 正、越後 早苗、斉藤 詔司、湯浅 真智子、服部 昌男、真尾 泰生、蓮井 淳子、矢崎 弘志、金澤 絵里、兵頭 儀子、杉山 正彦、大泉 滋、大泉 雅絵、湯浅 資之、湯浅 潤子、久保田 ケイ子、福原 淳子、和田 智子、金子 孝子、大西 信樹、大西 可奈、関谷 晴孝、駒形 和哉、井上 哲二、上 祥子、久保 和加、杉山 太子、松本 謙一、八木 理子、水口 美佳子、小笠原 里子、工藤 稔、難波 芳子、島崎 桂吉、早川 達也、森崎 龍郎、発寒ひかり保育園、中明 結花、佐々木 暢彦、堀 哲也、本宮 克子、黄瀬 和弘、西崎 いずみ、糸矢 宏志、斉藤 悦子、船田 静一、船田 知子、福多 範子、浦木 健彦、庵 房江、大泉 鐵、大泉 三千代、斉数 久子、平井 拓美、一木 崇宏、青野 美智代、斎藤 睦子、本間 景子、安味 則次、渡辺 叔子、(敬称略)

ご寄付を頂いた方、団体

平林 良登、山口 たか子、由良 珠江、藤 孔仁子、近藤 日出子、及川 清、水野 優子、二川 昌子、湯浅 真智子、服部 昌男、大泉 滋、大泉 雅絵、関谷 晴孝、駒形 和哉、井上 哲二、井上 祥子、杉山 太子、松本 謙一、難波 芳子、島崎 桂吉、佐々木 暢彦、札幌聖ヨハネ教会、横山 修、渡辺 叔子、(敬称略)

新しく入会された方

徳永 悦子

江村 わくり、(敬称略)

(2014年6月22日～9月27日)